

育成 モノづくり人材

Vol. 70

長野県立岡谷工業高校は、設立105年と長野県内の工業高校では最も古い歴史を持つ。同校が立地する長野県岡谷市は戦前から製糸産業が大変なにぎわいを見せた地域で、羽毛田哲朗校長が「最も盛期は日本で生産される生糸の約4分の1を出荷していた」というように、工業が盛んだつたルーツを持つ。戦後は、戦中に疎開でやつてきた周辺エリアの企業などもあり、やがて時計や光学機器などの精密機械工業が発展。「製造業への従事者の比率が、全国平均と比べてもかなり高い」（羽毛田校長）と主張のイベント「全国

実践力磨く技術系クラブ

成のために課外活動と後は、戦中に疎開でやつてきた周辺エリアの企業などもあり、やがて時計や光学機器などの精密機械工業が発展。「製造業への従事者の比率が、全国平均と比べてもかなり高い」（羽毛田校長）と主張のイベント「全国



長野県立 岡谷工業 高校



羽毛田校長

【DATA】 ▷校長＝羽毛田哲朗氏 ▷所在地＝長野県岡谷市 ▷学科構成＝環境化学科、機械科、電子機械科、電気科、情報技術科 ▷生徒数＝544人 ▷主要設備＝ガスクロマトグラフ、原子吸光分析装置、旋盤、マシニングセンター、3次元CAD、3Dプリンター、光造型機、UVプリンター、基板加工機、A実習装置など ▷主な進路＝マルヤス機械、セイコーエプソン、長野オリンパス、小松精機工作所、中部電力、平出精密、カゴメ、諏訪東京理科大学、神奈川工科大学など

「ロボコン＝信州」に参加する岡谷高のメンバー

する能力が身についている。時には、面接者としての技術系クラブを重視。中でも現在、全校生徒544人中約1割の41人が参加する電撲北信越大会や高校生氣部は、機械やシステム技術などを交えた横断的な技術へのチャレンジが特徴。工業高校は、企業面接の場などでも積極的に自己表現

たヒシを堆肥として二次利用する研究などにも取り組む。

岡谷市の工業課も同校を強力に支援する。

「各種モノづくりイベントへの学生の参加の促進や必要な技術サポートには、地元企業を紹介してもらっている（羽毛田校長）など

元の森林組合から学校林の名目で一部の山林の協力を仰ぎながら原死を受けて、信州大学2年生時に全員が経験きめ細かくサポート。

2年生時に全員が経験する3日間のインターンシップ（就業体験）の管理を暫定で任せられ、下草を刈るなどの活動に従事している。

環境化学科では、1年生が、企業面接の場などでも積極的に自己表現

されたヒシを堆肥として二次利用する研究などにも取り組む。

（諏訪支局長・岡部正広）

（金曜日に掲載）